

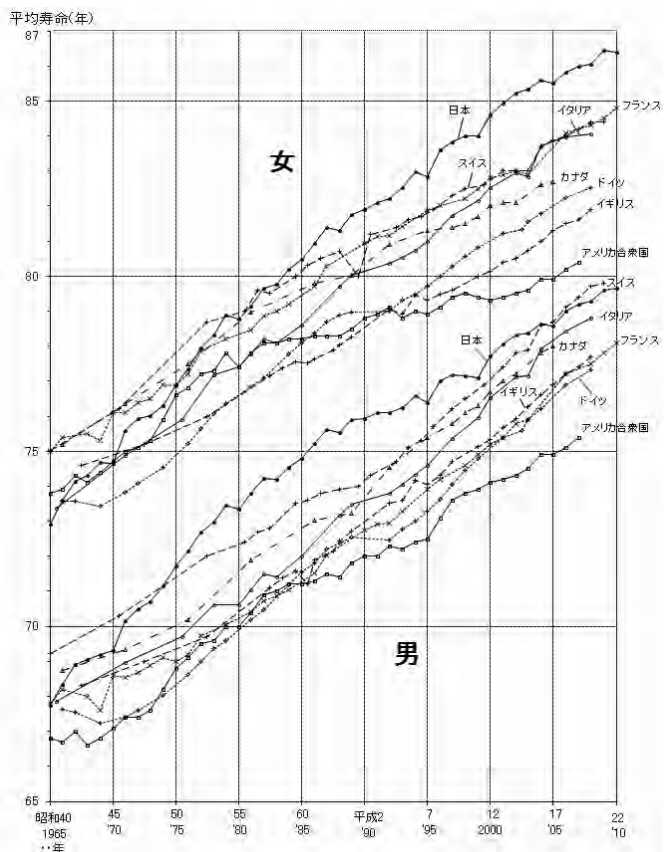
人生100年時代におけるシニア層の働き方

厚生労働省の平均寿命の国際比較において日本の平均寿命は、女性が2位のフランスに1.5歳の差をつけて世界一、男性も1位のスイスを若干下回るものの、世界最高水準にある。※下記(参考)参照
日本における少子高齢化による人口減少の先進地域である東北圏においては、将来の労働力を維持するため、企業における高齢者の就業機会確保に向けた取組みが喫緊の課題となっている。こうした取組みを後押しすべく、日本でも2021年4月に改正「高齢者雇用安定法」が施行され、「65歳までの雇用確保」に加えて、「70歳までの就業確保」が新たに努力義務化された。

リンダ・グラットン著「LIFE SHIFT」に謳われた「人生100年時代」を迎え、これからは年齢による区切りがなくなり、学び直しや転職、長期休暇の取得など人生の選択肢が多様化するものと予想される。本特集においては、今後一層の拡大が見込まれる働く高齢者層に対し、よりいきいきと幸せに働くにはどうすればよいかを提言すべく、有識者、行政、企業の方に寄稿をお願いした。

最初に、東京学芸大学の内田教授より、東北・新潟の高齢者雇用の現状と高年齢者雇用安定法の改正後の課題について解説いただき、地域性に根ざした高齢者雇用に関してご提言をいただいた。続いて、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構より、人生100年時代のシニア層活躍推進に向けた取組みと東北地方の企業の好事例についてご紹介いただいた。さらに、同機構主催の令和2年度高齢者雇用開発コンテストにおいて厚生労働大臣表彰特別賞を受賞された株式会社新潟アパタイトより、企業の高齢者雇用に向けた現場での具体的取組みについて生の声をお聞かせいただいた。高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人々が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会の実現に向けて、本特集がその一つの羅針盤となれば幸いである。

(参考) 主な諸外国の平均寿命の年次推移 (厚生労働省 HP)



資料 UN「Demographic Yearbook」等
注 :1990年以前のドイツは、旧西ドイツの数値である。